

## 平成 30 年度 奈良県租税教育推進連絡協議会会長賞

全国民が協力的な社会へ

奈良県立大淀高等学校 一年 仲 希彩

「どうして税金なんて払わなければならないのだろうか。」誰もが一度は考えたことがあるのではないのでしょうか。私も、税金について学ぶまではそう考えていました。「私たち国民が、どうして国にお金を払わないといけないのだろうか。」「税金は何のために存在しているのだろうか。」何も知らなかった当事の私は、税金に対して否定的な考えをもっていました。しかし、税金が存在する理由を知ったとき、私の考えは一変したのです。そんな中、私は更に税金について調べてみました。

税金について学んでいく中で、税金の使い道のほとんどが私たちのためであることがわかったのです。たとえば、学習に必要な教科書や実験器具であったり、私たちの将来に役立つ宇宙開発や科学技術の研究などに税金は使われています。そのほかにも、私たちが安全に満足できる暮らしをしていく上で、なくてはならないものにも税金は使われています。たとえば、消防や警察の活動。これらに税金が使われていなければ、消防車や警察を呼ぶためにお金を払わなければなりません。そんな中で、ストーカー被害に遭ったり、身近な人が他人に殺害されてしまったら、どうでしょう。そう考えると、私は多大な恐怖を感じました。もしもお金がなかったら、どうすることもできず、被害が拡大してしまうかもしれません。ほかにも、税金がなければ、救急車を呼ぶのも有料になってしまいます。どれほどお金がかかるのかはわかりませんが、きっと多くのお金が必要になることでしょう。そうすると、救えるはずの人が救えなくなってしまうのです。

これらのことから、税金が現在の日本と未来の日本を支えていることがわかります。私たちが税金を払うことで、私たち自身を救っているのです。私たちの家族や友人を救っているのです。最近では、消費税が増税するという話もあります。それはきっと、日本や私たちが救ってくれるでしょう。税金を払うことで私たちの暮らしは豊かになります。

私は、もっと多くの人々が税金への理解を深め、私たち自身でよりよい暮らしを作れるような、国民全員が協力的な社会になることを願っています。